

懐筆

三十八編上



為
し
る
の
あ
ら
わ
い

種
花
の

圓
貞

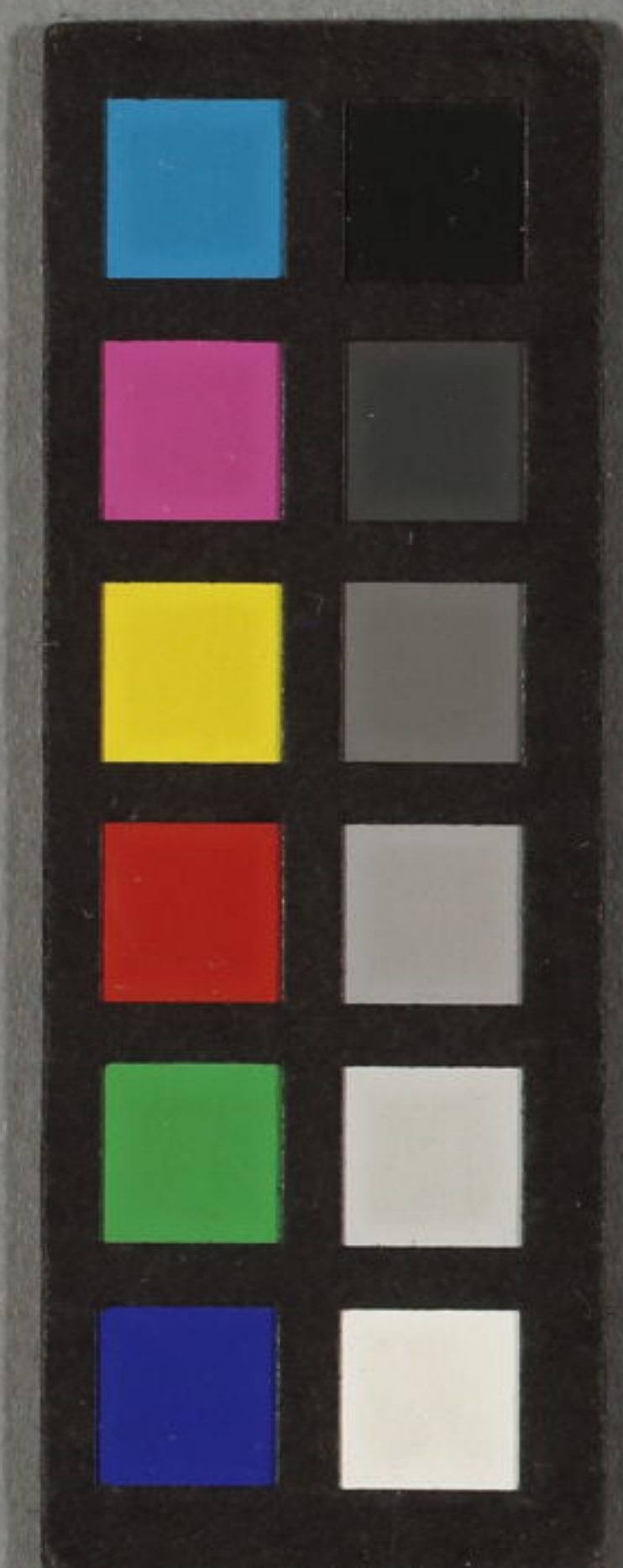
画

以
實

堂
作



三十八編下



境

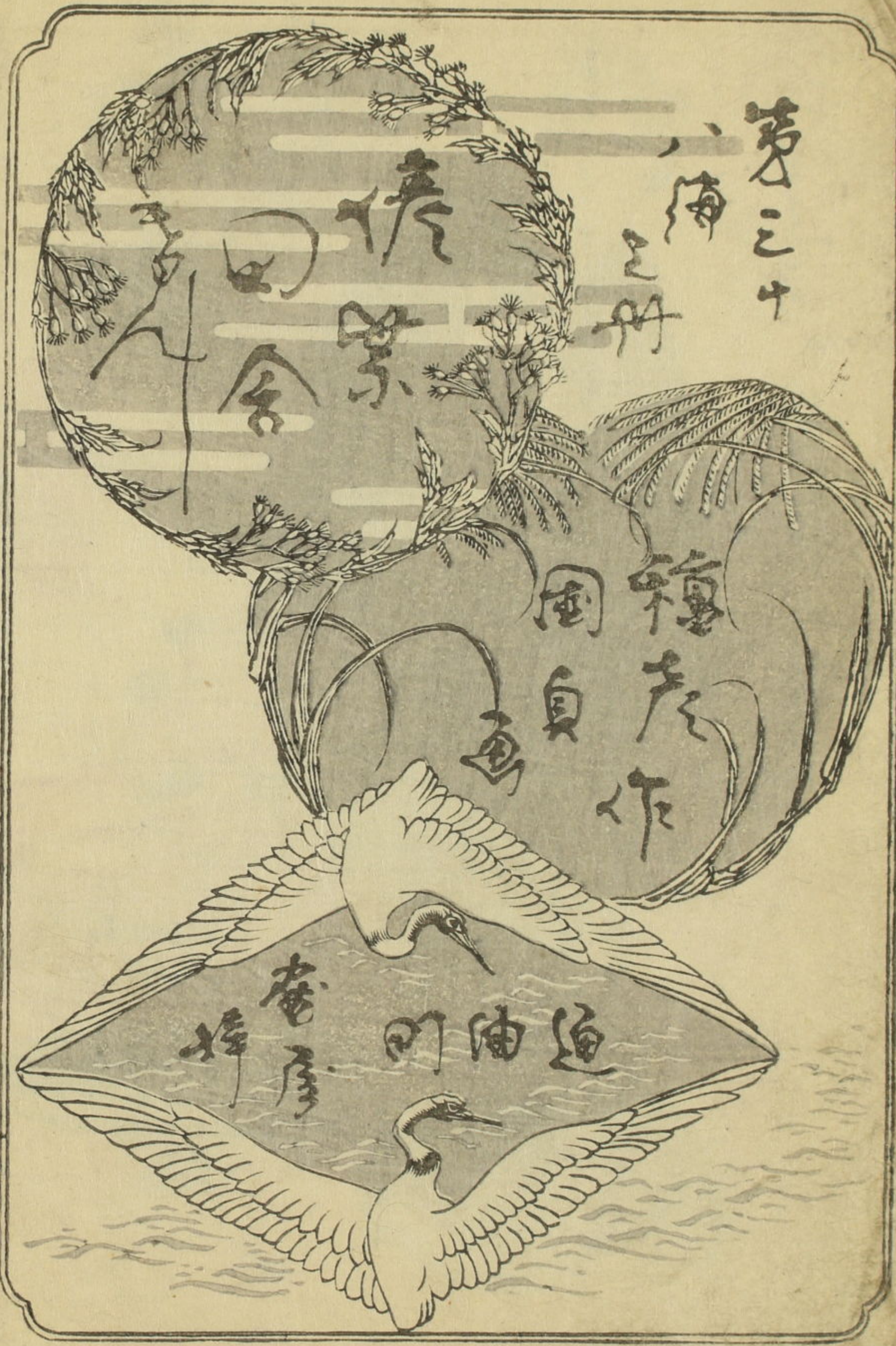
三十八編上

Handwritten signature or text in cursive style.



一冊
と冊

種彦作
画



延宝四年撰

至東集

定貞の句

名中

似せ月

を光

九行

燈

とい

る

の作

隣發夜話

の序

女郎

の寔

と玉子

の四角

の壺物

と歌

ひ

ふ行

暗合

の同論

あり

今

の座

の行

の燈

の丸

の物

のや

ふ心

え

大將

鬢曲

と海老

の尾

のや

う

割

の

亀戸

の案

末

の

軒

燈

の

扇

の

の

の

の

の

の

の

の

もの

を

其

の

前

の

の

の

の

の

の

の

る

べ

し

て

自

然

拙

作

も

源

氏

の

ら

ぎ

の

未

だ

を

續

ん

と

角

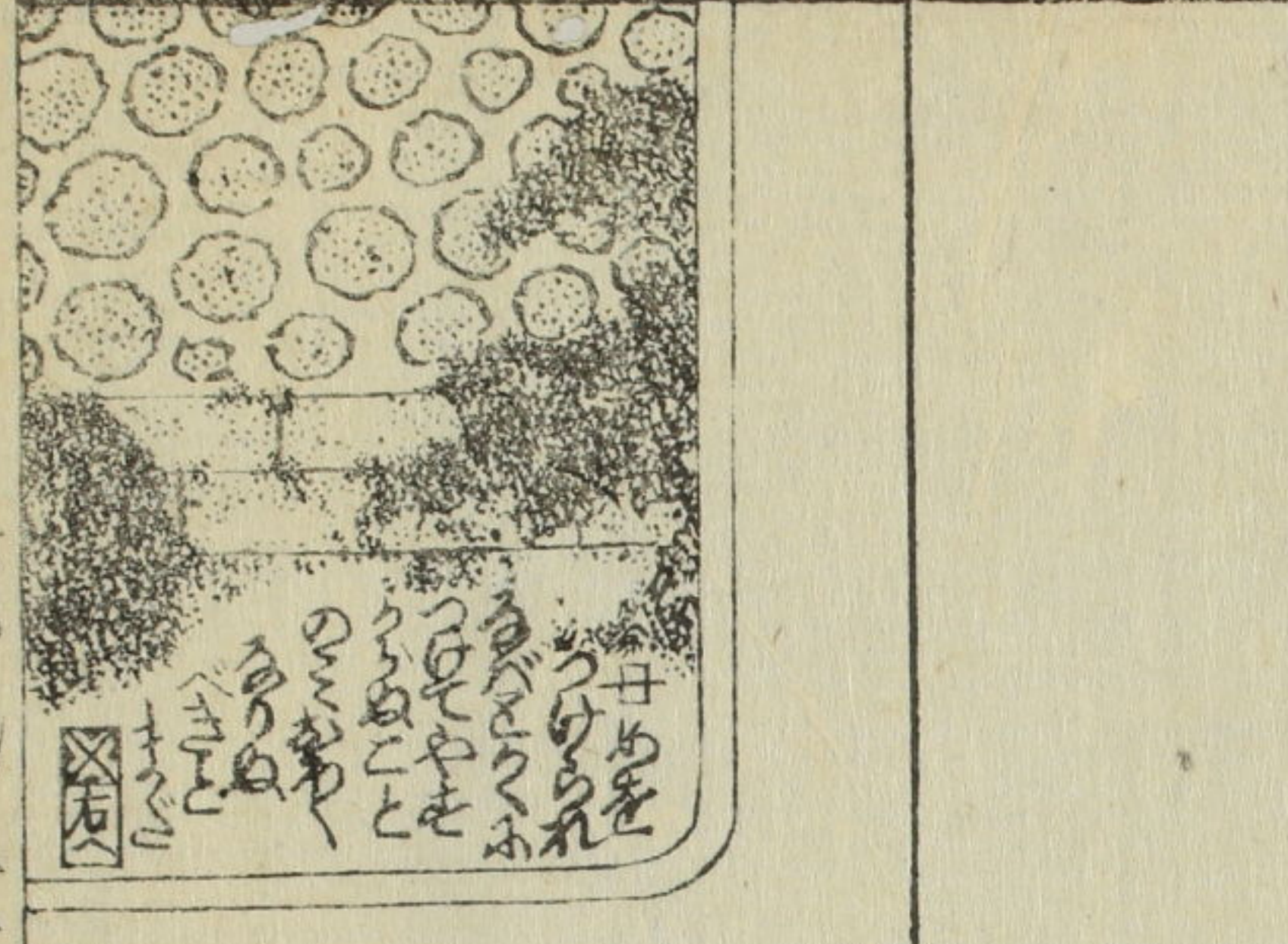
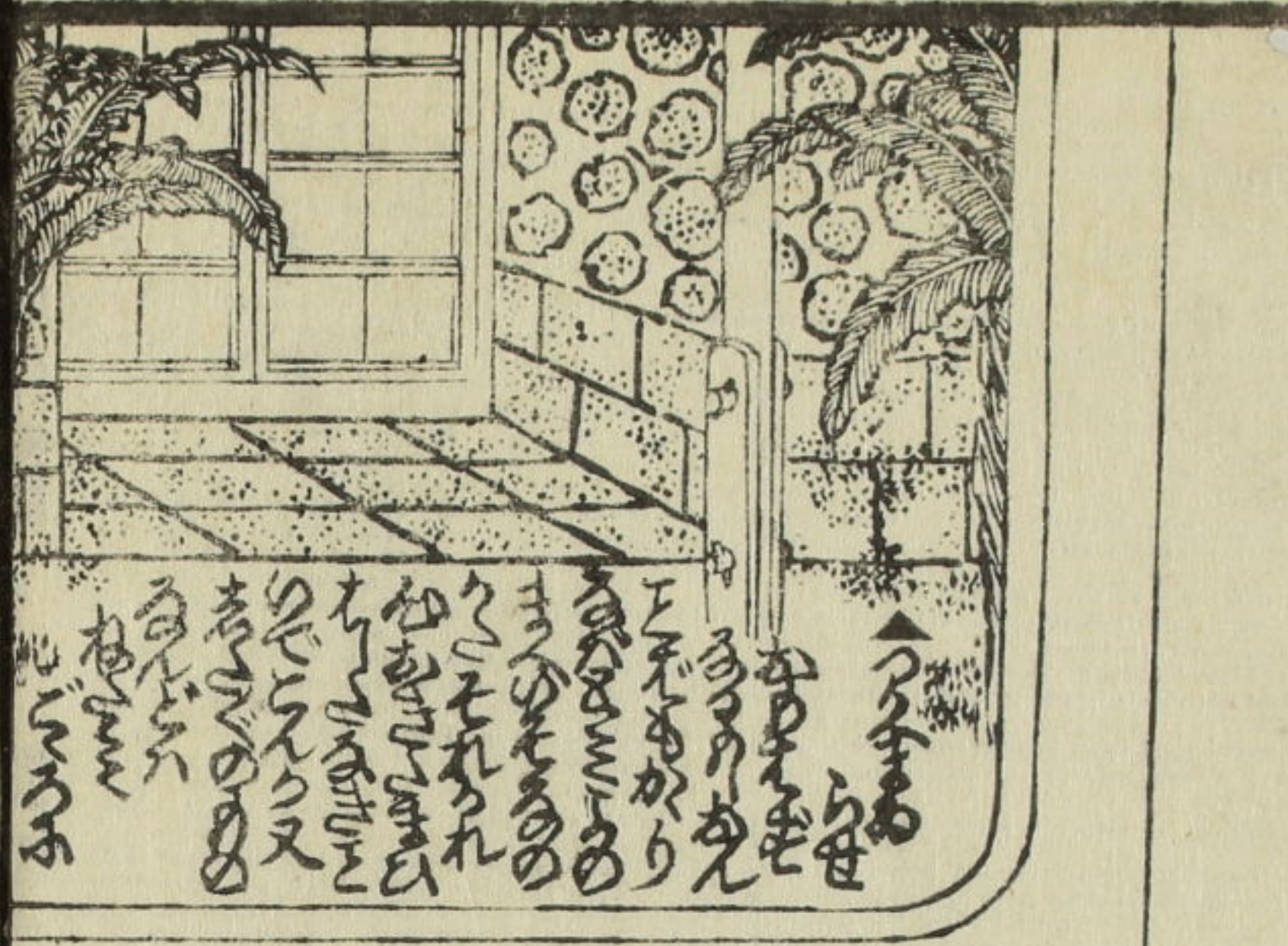
る

五

柳亭種彦誌



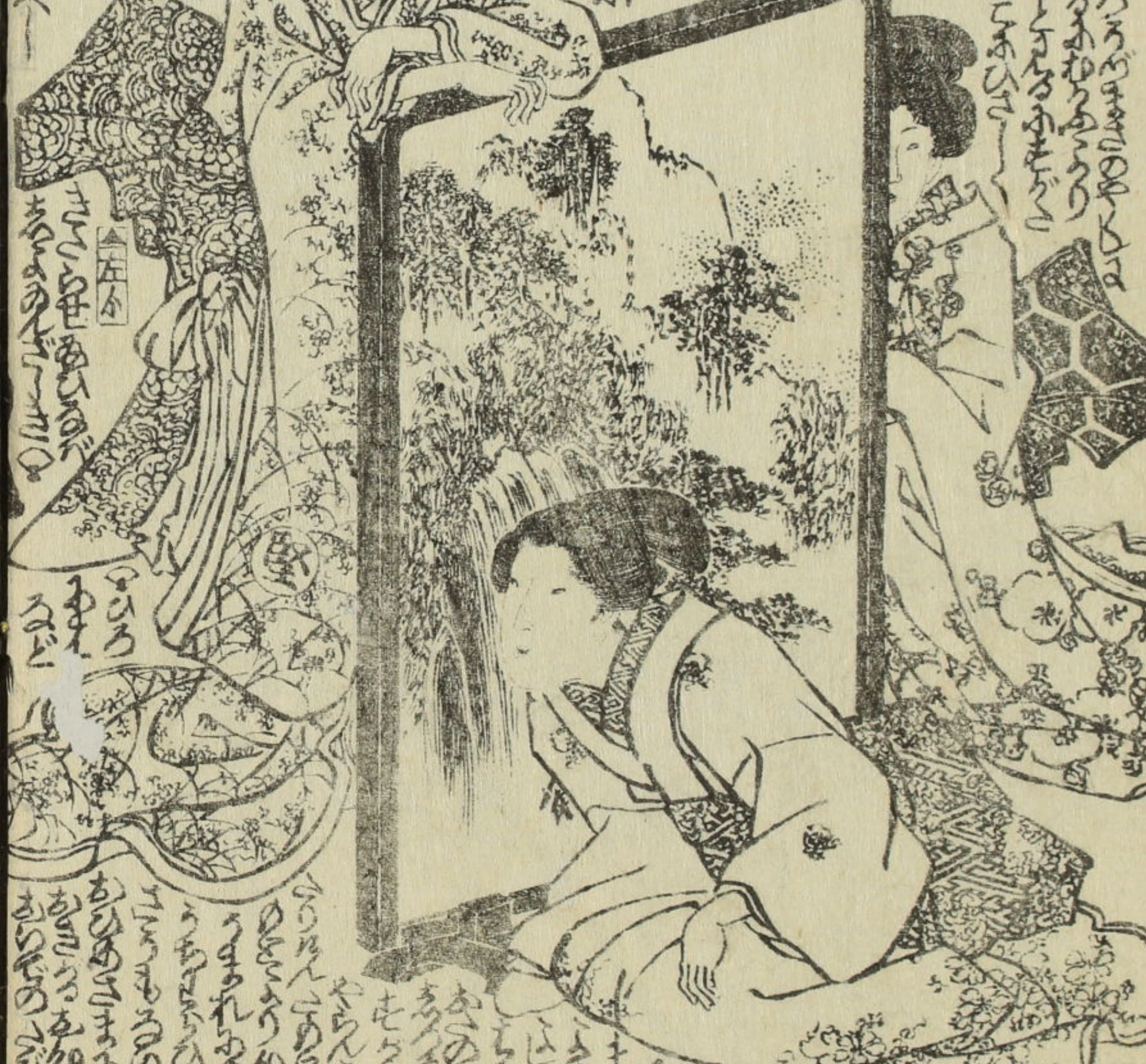
これよりいふまでもあり
あがりのあつてもある
まゝめしうられがもたれいと
つゆのあつてもある
人たつてもあつてもある
まゝめしうられがもたれいと



あつても
あつても
あつても
あつても
あつても
あつても
あつても
あつても
あつても
あつても

あつても
あつても
あつても
あつても
あつても
あつても
あつても
あつても
あつても
あつても

ついでに井川のくさくすとまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた



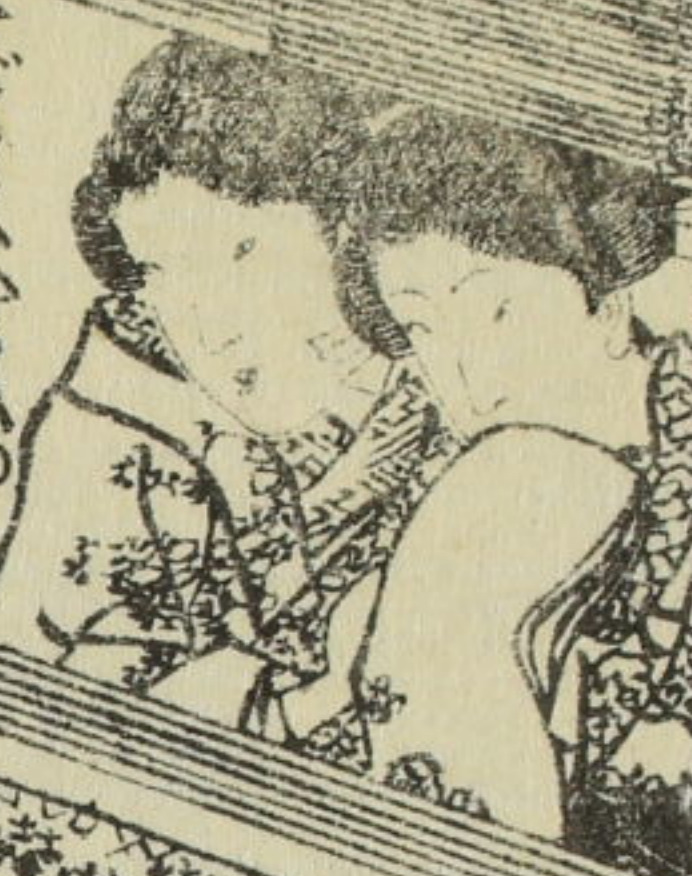
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

ついでに井川のくさくすとまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた
まじりておぼつかたをまじりておぼつかた



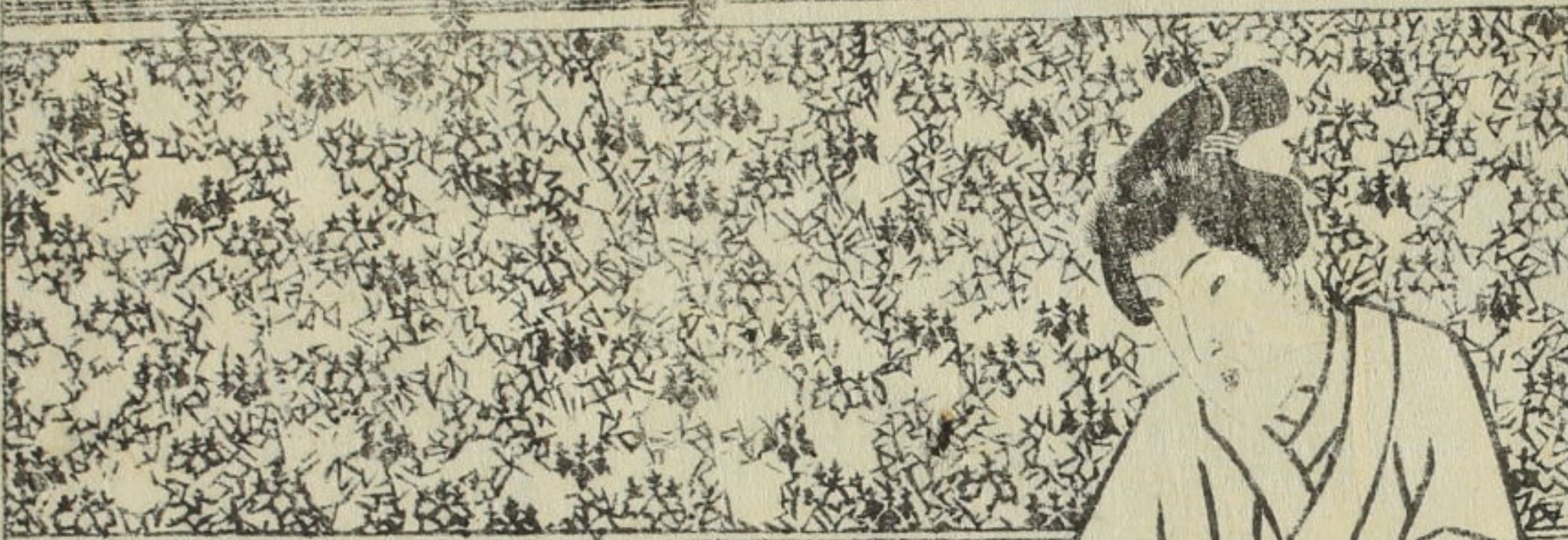
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは



あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは

あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは



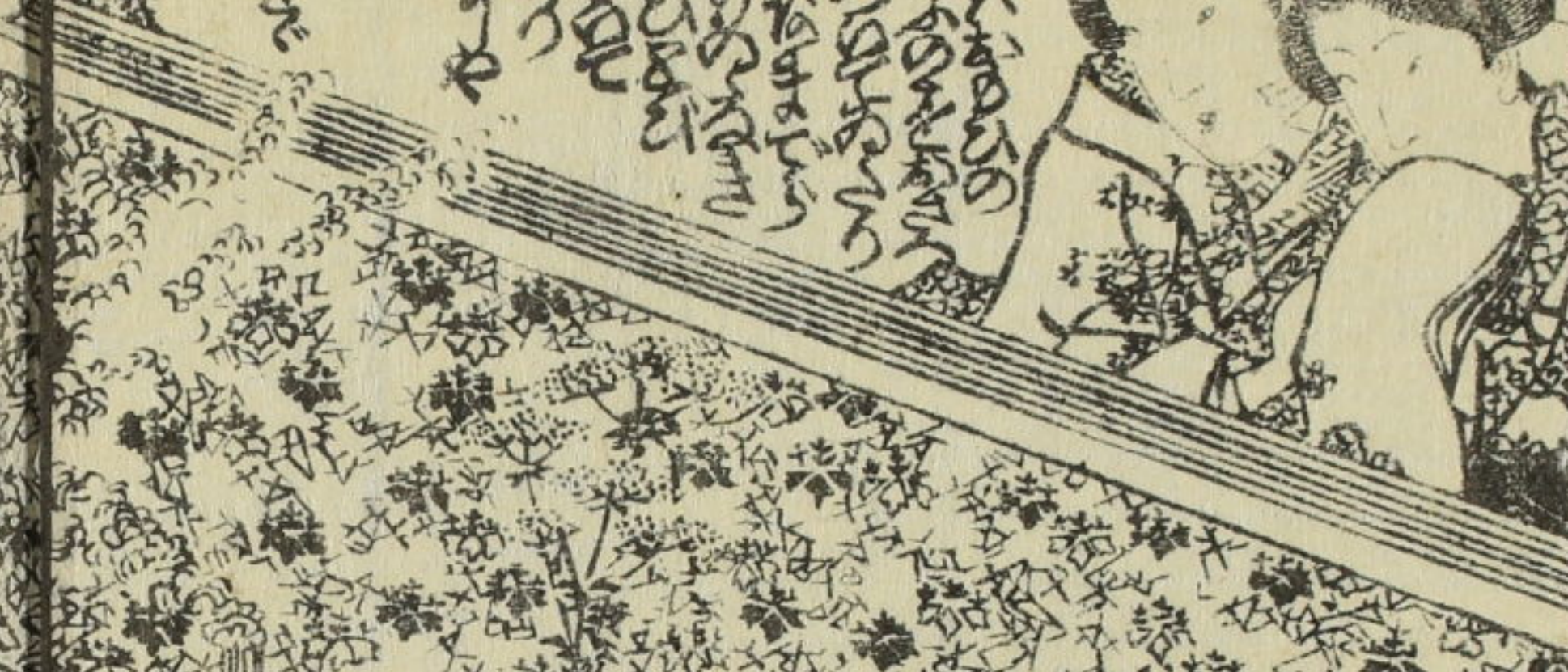
あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは



あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは

あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは

あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは



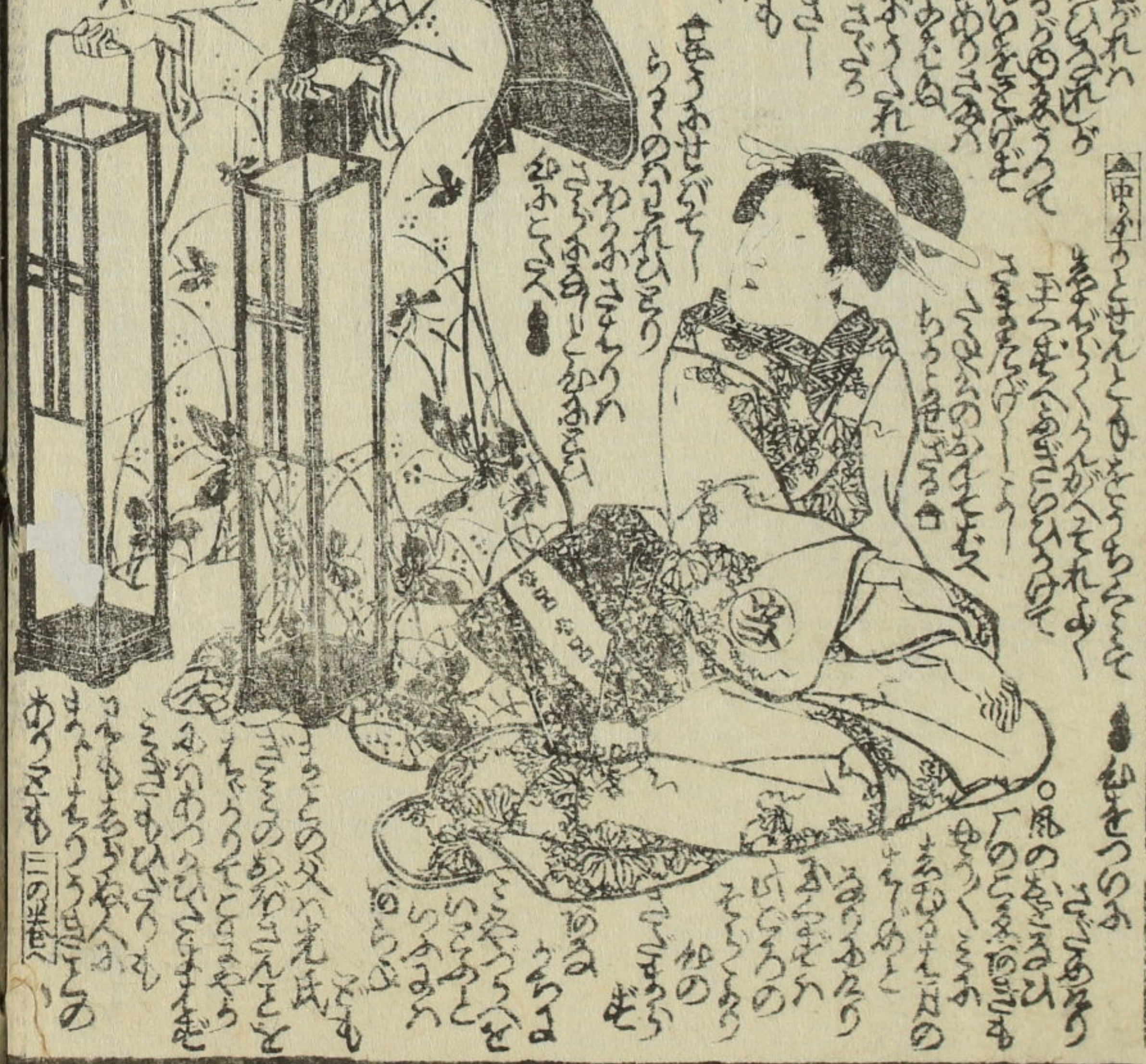
あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは



あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは

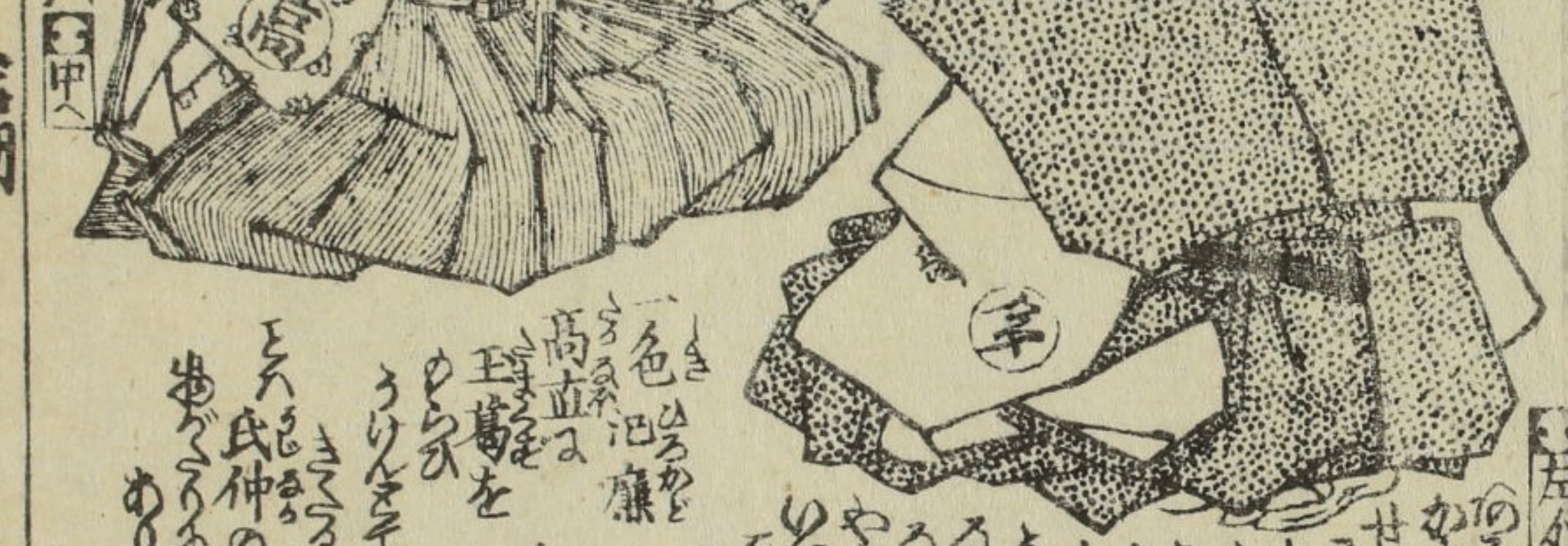
あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは
あはれなるおのれをいふは

母の心から花をこぼす... 母の心から花をこぼす... 母の心から花をこぼす...



母の心から花をこぼす... 母の心から花をこぼす... 母の心から花をこぼす...

母の心から花をこぼす... 母の心から花をこぼす... 母の心から花をこぼす...



母の心から花をこぼす... 母の心から花をこぼす... 母の心から花をこぼす...

京大... 中

天保辰春新書版林本地問屋仙堂

國貞四種彦作

この書は... 仙堂の... 問屋の... 彦作の... 仙堂の... 問屋の... 彦作の...



右の... 彦作の... 仙堂の... 問屋の... 彦作の... 仙堂の... 問屋の... 彦作の...

傾城水滸傳第二編全冊

花街雀竹夜遊

行事御祝儀音童講譯全冊

浮世世説全冊

修紫田舎源氏

成駒香 鶴聲丹 中村氏製

年代記童講譯全冊

霞帯

國字水滸傳第二編全冊

義仲朝日鏡

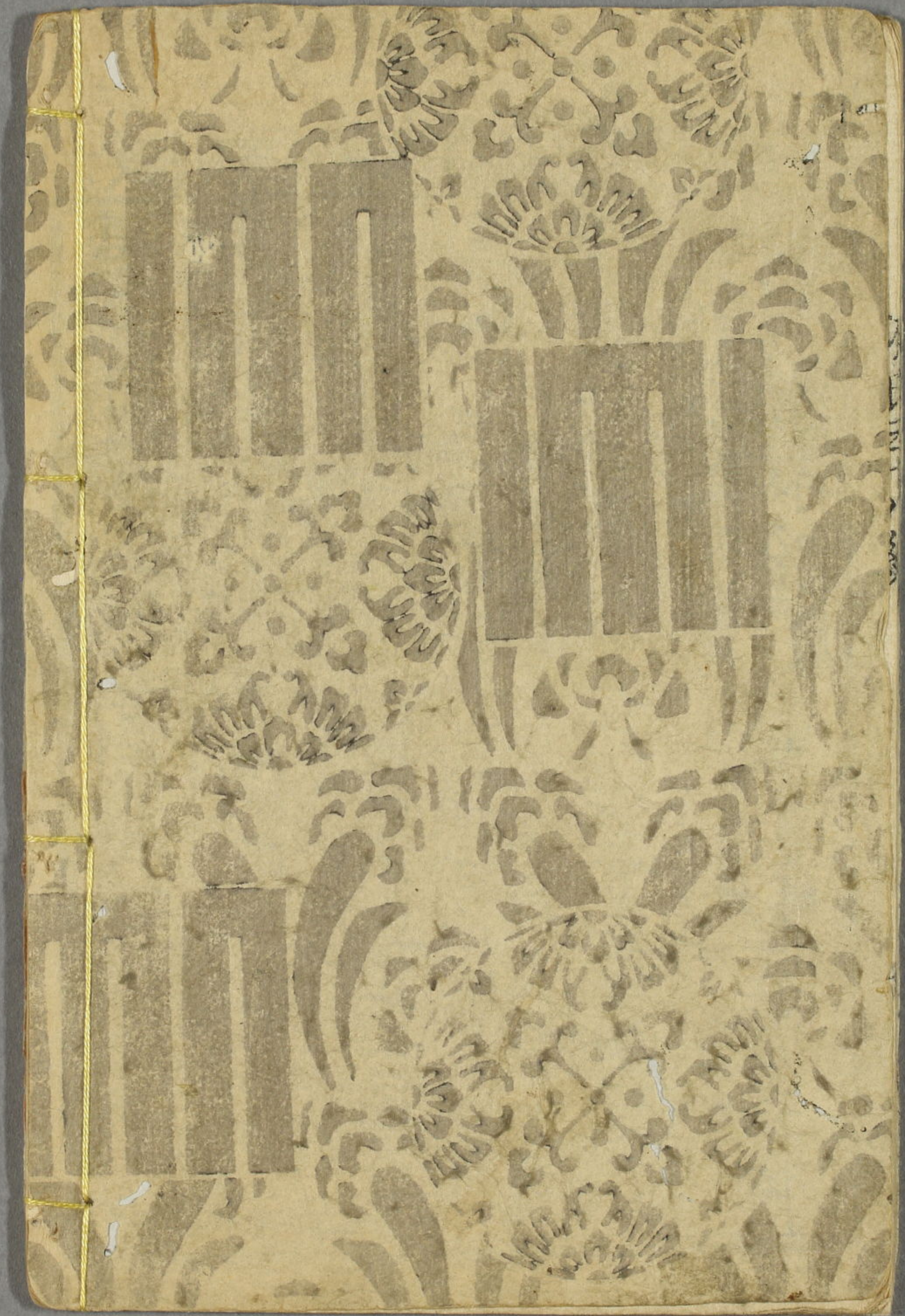
三國志重寶第二編全冊

團扇地紙 問屋鶴屋喜右衛門



團扇地紙

問屋鶴屋喜右衛門



80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9

種彦作

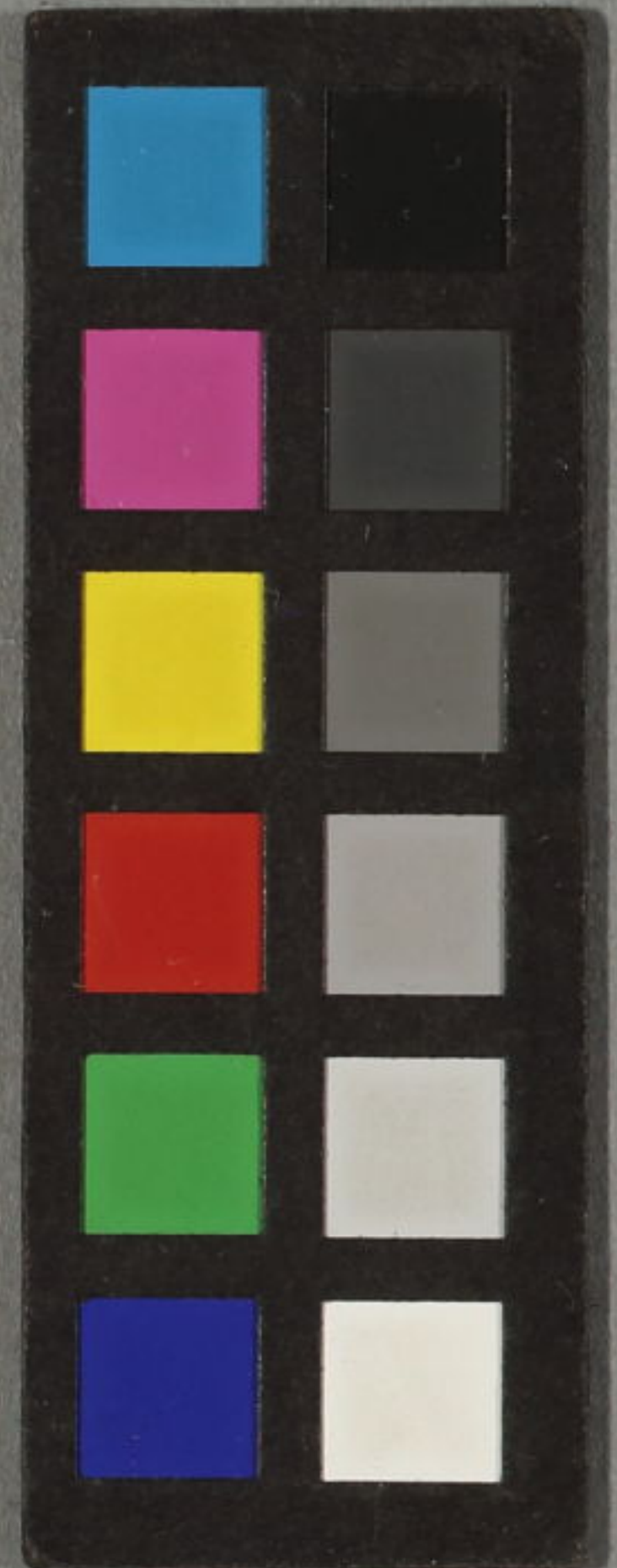
圓貞

画

以霍

堂様

三十八編下



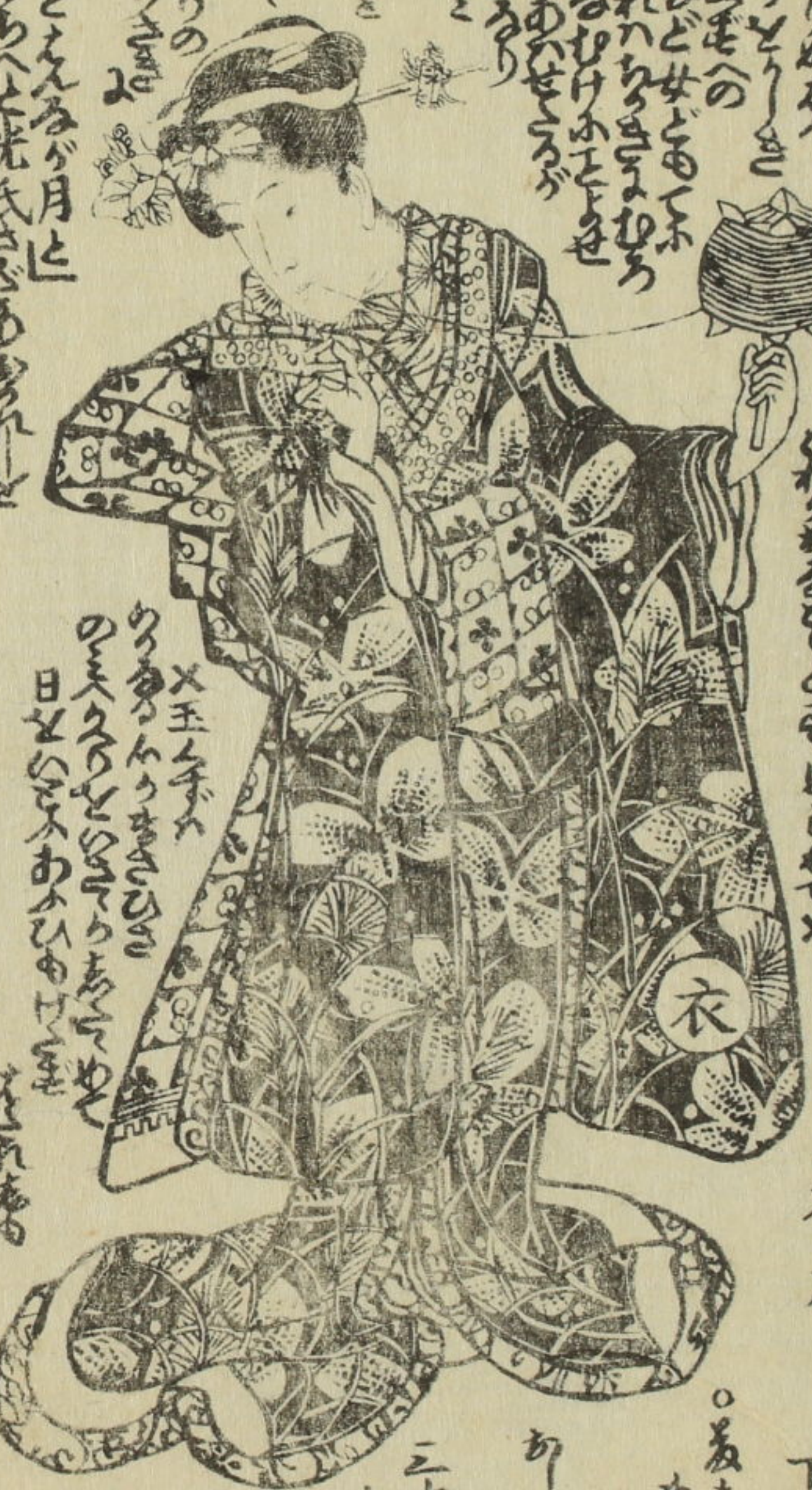


源氏廿八編



國貞画種彦作

つぎ光氏... 九月のま... 玉のま... 九月のま... 玉のま... 九月のま... 玉のま...



九月のま... 玉のま... 九月のま... 玉のま... 九月のま... 玉のま...

浄書 上冊柳枝 下冊金川 巻衣 二十九編の 出板 巻の あり

御免江戸開板所

載陽帖 南山禅師書東海道 道法早算用道中記 一枝搦

新撰 日本名所之繪 唐紙摺一枚 蕙齋歛形紹真筆

新撰 女古状揃園生竹 大紙本 西品出来 高井蘭山編撰

還魂紙料 柳亭種彦隨筆 古画入二冊

田喜春輔 昔の心と心 芭蕉海國の因縁の圖 柳亭種彦筆

叢書 筆 玄同放言 初編二編 三編 四編

右才二編三冊... 初編二編... 叢書... 筆... 玄同放言... 初編二編... 三編... 四編...

三敬在末本校輯
芳州集 全冊 板
追系也長伊勢道に河屋建を打寄る事ありて平首の事
列ししむ初附名ありての所を初編に附ししむる也
交款を二面巻末の年々の編りて附ししむる也

蘭集 全冊
追系也長伊勢道に河屋建を打寄る事ありて平首の事
列ししむ初附名ありての所を初編に附ししむる也
交款を二面巻末の年々の編りて附ししむる也

歡童 遊言画手本 一名鳥羽繪早まひ出来
戲筆

廣益 懷中早割大金 小本
塵劫記

新形 添彩目 植花手引系
前編出来 後編出来
前北齋為筆 後編嗣刻

芝居 似顔早替古 後編
全冊 五渡亭國貞画

文字 自笑評
後者 似顔早替古 後編
全冊 五渡亭國貞画

藝定 後者 評判記
全冊

即考 百籤
全冊

年代記 兒童講譯 初編 全編
當年上梓 山東庵京山作

此稗史ハ神代のむりよの年代記小考よりその外にれたるを
備いかりろまゆのりをも後小ありこれをもあはむり世の
心をよくあきめりて童子ののれあるたよりともなるを記さるり

御祝儀日童講譯 全部 二冊
初編 全編
山東庵京山作

此稗史ハ正月の松をうりて始とてに餅を祝ひて七をさの事
はつりけのりをもまへ十二月月の夜日の故吉又未歴をうりて
るを絵よあはし年中の祝ひのりけをもあきめりて早學問の事さるり

拳獨 藝古 中本 全一冊
山櫻連々 逸軒 搖舟 合作

此の書ハ卷とあとの初編の官人より其の披見ありて
此の書ハ卷とあとの初編の官人より其の披見ありて
此の書ハ卷とあとの初編の官人より其の披見ありて

戲場顯微鏡

上帙二冊 彩色

默々漢隱著 歌川國貞畫

此書は戲場考古博覧の諸子著述する劇の重なりと云ふも皆故実
監録のこともあつて看する規則をあるべき事といふ事の法則を
うらみ法らうとも其居の口は多くその物に代りて其の法則を
おのり功たるとも云ふ事ありて且三巻あるの趣考古の法則を
あらわす

本朝艶容女仙外史

初編 五冊

默々漢隱翻案

この書は唐山の逸史が華を著せし妙案をそ奇談を著し
兒書なるを流し本朝の劇案の作るに法を以て後小幡愚圃を
のりま依りて唐實見をその内ゆき至利尊氏を撰りて一箇の漢
つていふは油亭翁の撰りてその看官の法君子より高く輝を
おしく次編をえりてあつていふ事ありていふ事あり

頭微鏡 萬邦劇場談

上下 二冊

默々漢隱著

此の初編はもと唐の法則を以て唐山人空魯西を著し其の
まは戲場にけりていふ事ありていふ事ありていふ事あり

御免江戸曆開板所梅

年十月下旬頃より賣初め

石摺和文章

載陽帖全一冊 南山禪師書

撰新 田本名所之繪 唐紙摺一枚 蕙齋銀形 結真筆

撰新 女古状揃園生竹 大紙本 両品出来 高井蘭山編撰

撰新 還塊紙料 柳亭種彦隨筆 古画入二冊

撰新 田喜菴輯 芳の巻 如住菴記引證

撰新 筆 女同放言 初編二編 三編 近刻

右の三編三冊は常用の法に依りて編むる事ありていふ事あり
初編二編は常用の法に依りて編むる事ありていふ事あり

三編註本本校註
芳州集全冊
同輯
禁蘭集全冊
道
如

歡童遊言
畫手本一名鳥羽繪早まかび出来

廣益懷中早部大金
一冊
上直下直

新形染彩目
前編出来
後編未刻

芝居似顔早部古
全三冊五渡亭國貞画
画の及

文字自大評
三箇之津
藝品定
即考百籤
全一冊
竹書

從免江戸曆開板所
每年一月下旬
載陽帖
南山禪師書東海道
道法早部用道中記
一校揚

新撰
日本名加之繪
唐紙開一校
蕙齋銀形給真筆
新撰
女古狀捕園生竹
半紙材兩品出来
高井蘭山編撰
い

還魂紙料
古画入二冊
柳亭種彦隨筆
い

隨筆
玄同放言
初編二編
右才三編
い

田喜
い

い

い

い

い

い

い

天保三年壬寅新春新彫

三曲抄木下校輯 開國の初めは和漢交用豊後藩に在りし中書省の御用を
芳洲集全冊 板 於ては百巻をありしを華の流に二巻に縮めしむる也
同編 系揚子江の道に流るる舟の西の舟に在りし中書省の御用
叢蘭集全冊 刻 於ては百巻をありしを華の流に二巻に縮めしむる也

童遊言画手本一名鳥羽繪早まひ出来

廣益懷中早割大全 小本 於ては百巻をありしを華の流に二巻に縮めしむる也

新形深彩目 植花手引 前編出来 後編出来 此の編よりいへば

芝居似顔早替古 後編 全冊五渡亭國貞画 此の編よりいへば

役者評判記 全冊 此の編よりいへば

即考百籤 全冊 此の編よりいへば

自文政十二年己丑 至天保十三年壬寅 十四箇年繪草紙

倭紫田舎源氏 柳亭種彦作 歌川國貞画

三十八編 少くもなる巻より 栞柱梅枝まつき 四十二編 巻出板

柳亭去夏より秋くけて病氣のこころは漸く不快氣仕 仙雀堂敬白

鴛鴦物語 初編四冊二編四冊 金澤万八笑増談 松竹園秀山作

歌川國貞画 五雲亭貞秀画

美艷仙女香 製所 坂本氏 取次



書物錦繪 團扇地紙

問屋 江戸通油町 鶴屋喜右衛門

黒油美玄香

